

本日の話題

片田敏孝

- ✓ 黒潮町からの発表について
～「町長、1番で良かったじゃないですか」の真意～
- ✓ 巨大津波想定に対する**重要な2つの議論**
- ✓ 改めて**“想定”**とは？
- ✓ **災害制御可能感**に支配された日本の防災
- ✓ 巨大災害想定に向かう**わが国の防災**に求められること
 - 主客未分の防災体制の確立
 - 諦観論を前提とした防災思想が必要
 - 「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」での議論

黒潮町発表
への補足

黒潮防災の大きな転換点

東日本大震災後
内閣府で検討された

南海トラフ巨大地震津波想定の公表



町長、**1**番で良かった

じゃないですか

想定を**正しく理解**して、
前向きに向かい合う**気運**を導く

シミュレーション の解釈

次の津波が
34.4mというわけではない

1000年確率 の意味

「十中八九 違う」
とも言える

町長、**1**番で良かった

状況ではなく

想定に

怯えている

じゃないですか

2番じゃ意味がない

1番だから

できることがある

巨大災害想定に対する重要な2つの議論

様々な想定のもとでありうる事態に

最大限どう備えるか

これまでのWGは、主に↑こっち
※対策を考えることは大切。否定しているわけではない。

対処不能な事態もあり得ることを前提に、
対処の処方箋が示しきれない災害に
(備えきれない事態に)

どう向かい合うのか

それでも向かい合う国民の**姿勢をつくる**、
いわば、自然災害に向かい合う**文化・社会風潮**

改めて“想定”とは？

◎備え(防災)における想定

防御の目標としての想定が必要

無限に大きな災害を想定することはできない

◎あり得ることとしての想定

相手は自然であり、
対処の処方箋は示しきれなくとも
あらゆる事態が想定される

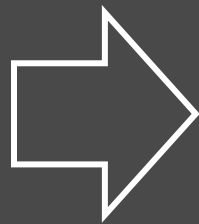
“想定最大規模”の影響：住民の受容

- 1000年に1回：3.11を踏まえて、国民に理解が得られた？
- 想定が悪影響
 - 「それに備えなければ防災に非ず」
 - 震災前過疎

それであっても、この地に生きる。

反省

改善



行政による
ハード対策を中心に
被害軽減を達成

錯覚

**災害制御
可能性**

災害を人為的に
抑えこむことができる

ゼロリスク



災害制御可能性に支配された日本の防災

災害制御可能性: ハード防災

被害回避可能性: ソフト防災

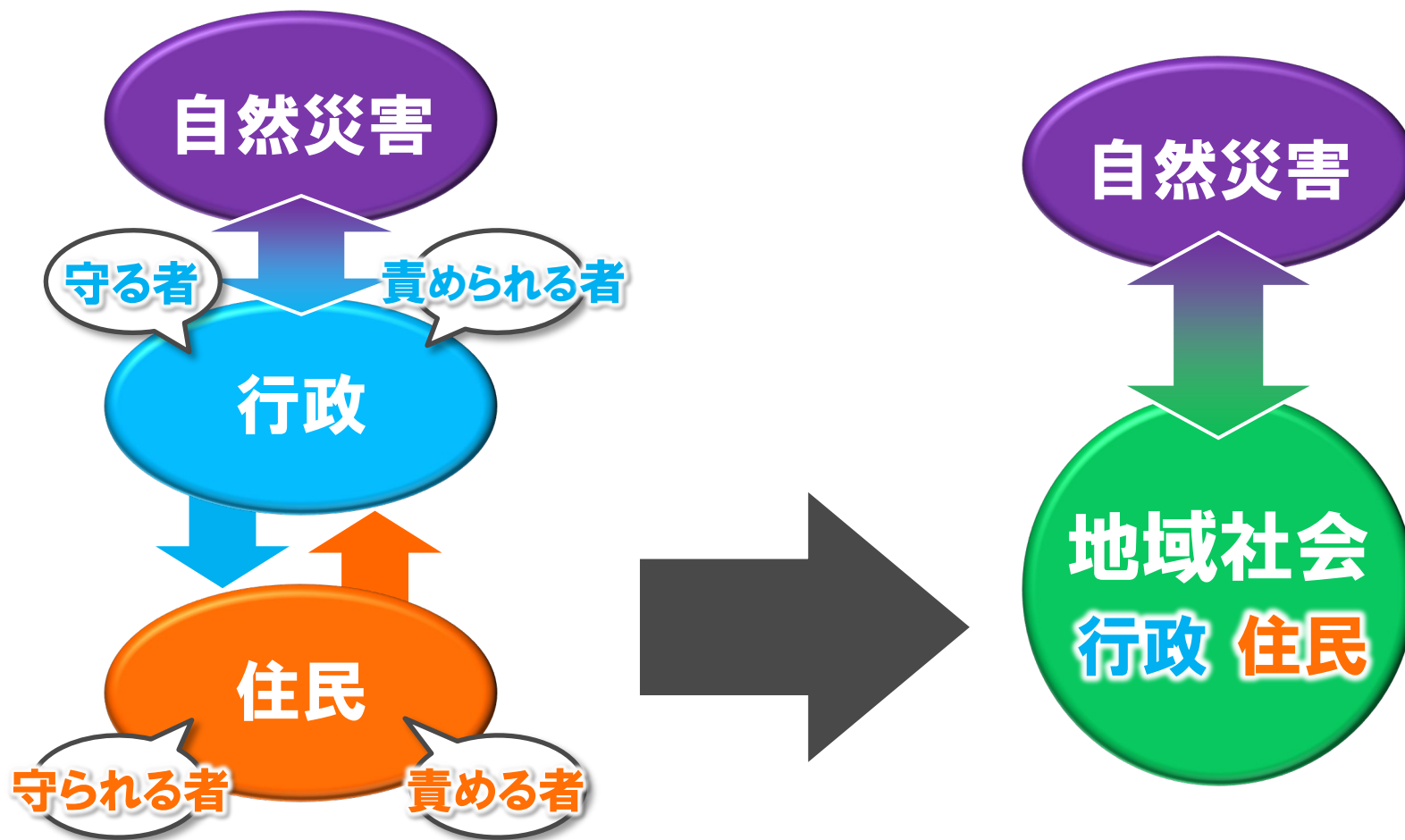


「災害がない」

「我が身に被害が及ばない」

を目指した日本の防災の破綻

日本の防災の向かうべき方向性



しゅ かく み ぶん

主客未分の防災体制の確立

主体と客体が分かれず、一体である状態

諦観論を前提とした防災思想が必要

諦観論的防災思想を共通認識に防災の議論を。

相手は自然。如何なることもあり得る。

自然災害には
抗えない ≠ 諦める

悔ることでも怯えることでもなく
自然に対する**畏敬の念**をもって
淡々と**最善を尽くすのみ**

(デジタル大辞泉)

てい・かん
【**諦観**】

①本質をはつきりと見きわめること。
諦視。「世の推移を諦観する」

②あきらめ、悟って超然とすること。
「諦観の境地」



高知県

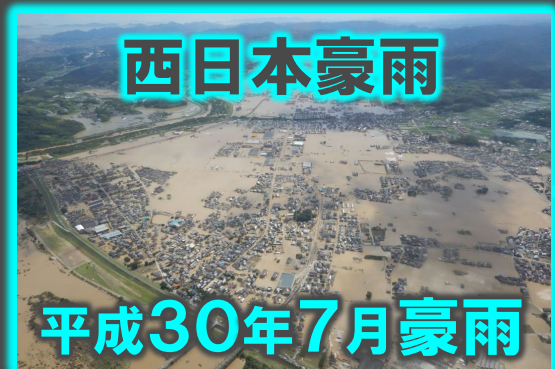
高知空港



黒潮町が
何故うまかったのか？

大災害のたびに問われ、検証・検討を重ねる我が国の防災

⋮



中央防災会議・防災対策実行会議

平成30年7月豪雨による
水害・土砂災害からの避難に関する
ワーキンググループ

平成30(2018)年9月～平成30(2018)年12月



令和元年台風第19号等による
災害からの避難に関する
ワーキンググループ

令和元(2019)年12月～令和2(2020)年3月

継続

令和元年台風第19号等を踏まえた
避難情報等
に関するサブワーキンググループ

令和元年台風第19号等を踏まえた
高齢者等の避難
に関するサブワーキンググループ



(2018年)平成30年7月豪雨

主に、6月28日
～7月8日

写真) 出展：国土交通省 中国地方整備局「平成30年7月豪雨による中国地方整備局管内の出水概況【第1報】7月10日(火) 9時現在」
統計) 出展：消防庁「平成30年7月豪雨及び台風第12号による被害状況及び消防機関等の対応状況(第60報)」2019年8月20日13時00分

死者**263**名

行方不明者**8**名

平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ(平成30年8月～12月)



西日本豪雨

(平成30年7月豪雨)

を教訓に

防災情報のあり方

を議論



平成30年7月豪雨を踏まえた
水害・土砂災害からの避難のあり方について
(報 告)

平成30年12月
中央防災会議 防災対策実行会議
平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関する
ワーキンググループ

平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ(平成30年8月～12月)

第1回
(10/16)

- 膨大な資料
- 膨大な反省点・改善点の列挙

- 20年前にもこういった会議。
- 真摯に反省され、真摯な改善策が挙げられ、真摯に対応してきた。
- それを災害の度に繰り返している。
この会議を10年後もやっていると思う。

第2回
(11/27)

- 反省・改善すべき項目が並んだ
報告書(案)

- とても真摯に反省されている。
次に活かすという姿勢に異論はないし、違和感もない。
- でも、全部を読み終わったときに
違和感がある。

第3回
(12/11)

- 報告書(完成)
(委員らの承認)

- 避難するのは住民であって、
『国民の皆さんに周知する』
『防災意識が上がるよう自覚を促す』
『避難していただく』
…そうなんだろうか？
主体は行政、客体は住民？

改善を重ねることだけで

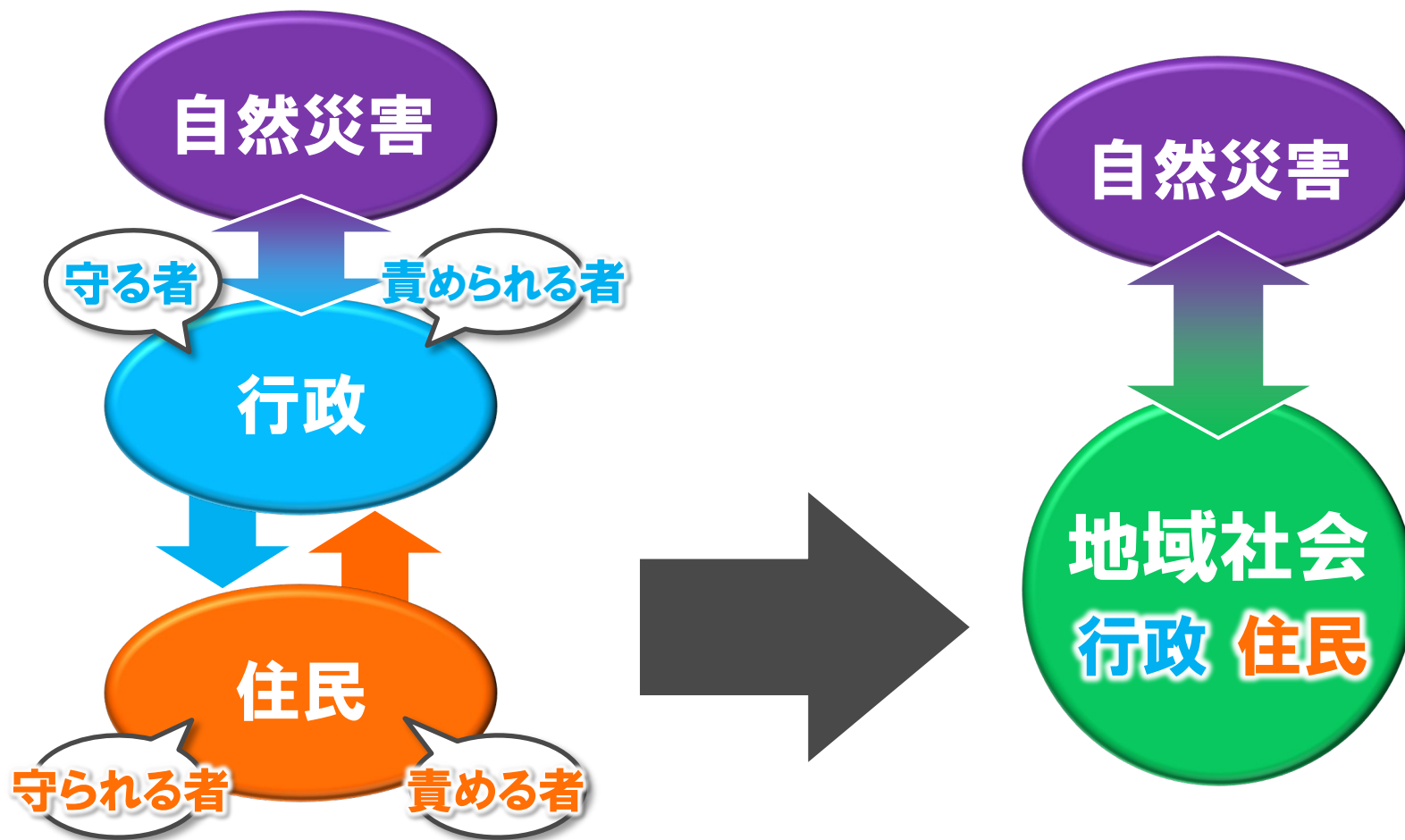
災害を克服できるのか？

PDCA
サイクル

妥当か？



日本の防災の向かうべき方向性



しゅ かく み ぶん

主客未分の防災体制の確立

主体と客体が分かれず、一体である状態

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの 避難のあり方について(報告)

Ⅲ. 今後の水害・土砂災害からの避難対策への提言 — 1. 避難に対する基本姿勢

現状

- ・ 行政は防災対策の充実に不断の努力を続けていくが、地球温暖化に伴う気象状況の激化や行政職員が限られていること等により、突発的に発生する激甚な災害への**行政主導のハード対策・ソフト対策には限界**がある。
- ・ 防災対策を今後も維持・向上するため、国民全体で共通理解のもと、**住民主体の防災対策に転換していく必要**がある。

目指す社会

これまでの「**行政主体の取り組みを改善することにより防災対策を強化する**」という方向性を根本的に見直し、住民が「**自らの命は自らが守る**」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政は、**それを全力で支援する**という、**住民主体の取組強化による防災意識の高い社会**を構築する必要がある。

住民主体の防災対策に**転換**

防災は、主体的な姿勢をもつ
住民のみなさんへの対する

行政サービスから
行政サポートへ

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの 避難のあり方について(報告)

おわりに 国民の皆さんへ ~大事な命が失われる前に~

- 自然災害は、決して他人ごとではありません。
「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- 激化した気象現象は今後更に悪化するでしょう。
- 行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。
自然の脅威が間近に迫っているとき、
行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- 避難するかは「あなた」が判断してください。
皆さんの命は皆さん自身で守ってください。

(中略)

- 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、
一人では避難が難しい方の援助、地域の皆さんで助け合いましょう。

行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。